第７５次　印旛地区教育研究集会
国語研究部「書く」分散会

自ら学び考え表現する力の育成
～短歌作りを通して自身の感動を伝える～

印旛支部
富里市立富里中学校

1　めざす生徒像

本研究では、社会の状況や本校生徒の現状に照らし、以下の生徒像を目指す。

富里市立富里中学校　学校教育目標

「自ら学び、豊かな心を持ち、たくましく生きる生徒の育成」

・「答えのない問い」に向き合い、思考し、判断し、表現する生徒
・語彙力を向上し、表現力の幅を増やせる生徒
・自身の表現を推敲し、表現力を深めていく生徒
・問題の解決、さらなる能力向上のためにコミュニケーションをとれる生徒

2　研究主題

自ら学び考え、表現する力の育成
～自身の感動を伝える短歌の創作を通して～

3　目指す生徒像および主題設定の理由

（1）社会の現状から

現代社会は、急速な技術の発展に伴い、「Society5.0 時代」の到来や先の新型コロナウイルスの感染拡大による生活環境の変化が起きている。このような予測不能な時代の中において、生徒一人ひとりが、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要であると考える。そのために自分自身を表現し、伝える手段を育む「国語力」を育成していきたい。

（2）中央教育審議会答申、学習指導要領から

令和７年に中央教育審議会より出された答申[1] には、高等教育では今後（1）のような時代を生きる生徒に求められる資質・能力として、『生成ＡＩ等の技術革新が進む社会において、ＡＩに代替されるのではなく、ＡＩをはじめとしたデジタル等の最先端の技術も使いこなし、持続可能な社会の担い手や創り手として真に人が果たすべきことを果たせる力を身につけることを求めている。それは、言い換えれば、「主体性」、「リーダーシップ」、「創造力」、「課題設定・解決能力」、「論理的思考力」、「表現力」、「集中力・粘り強さ」、「コミュニケーション能力」等の資質・能力と言い換えることもでき、一人一人がそれぞれの個性に応じて身に付け、伸ばすことで、その能力を発揮していくことが期待される』とある。このことから中等教育の生徒たちは、段階的に自身の考えを持ち、発信することのできる「表現力」や

---

[1]　文部科学省　中央教育審議会　諮問・答申等一覧　令和７年５月 12 日　p7 ～
我が国の「知の総和」向上の未来像～高等教育システムの再構築～（答申）（中教審第 255 号）
https://www.mext.go.jp/content/20250221-mxt_koutou02-000040400_1.pdf

「コミュニケーション能力」の向上により、さらなる「国語力」の向上を目指すべきだと考える。

また、『中学校学習指導要領（平成２９年告示）解説　国語編[2] 』には、「国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養うことを示している。言葉がもつ価値には、言葉によって自分の考えを形成したり新しい考えを生み出したりすること、言葉から様々なことを感じたり、感じたことを言葉にしたりすることで心を豊かにすること、言葉を通じて人や社会と関わり自他の存在について理解を深めることなどがある。こうしたことを価値として認識することを示している。言語感覚とは、言語で理解したり表現したりする際の正誤・適否・美醜などについての感覚のことである。話したり聞いたり書いたり読んだりする具体的な言語活動の中で、相手、目的や意図、場面や状況などに応じて、どのような言葉を選んで表現するのが適切であるかを直観的に判断したり、話や文章を理解する場合に、そこで使われている言葉が醸し出す味わいを感覚的に捉えたりすることである。言語感覚については、小学校では養うとしているものを、中学校では豊かにするとし、より高いものを求めている 。」とある。そこで文章の推敲を行い、自身の感覚を端的にまとめることができる学習により「言語感覚を豊かに」し、文章表現力を向上することができるのではないかと考えた。

（３）国語科としての観点や本校生徒の実態から

近年では、ＳＮＳ（social networking service）の発展により、簡易なコミュニケーションをとることが容易となった。感情の伝達も「スタンプ」や「グッドボタン」といった機能が多用され、その代償として、国語的な言語による伝達手段の機会は、減少傾向にあると感じる。それは本校も同様で、言語感覚や語彙量が、限られた表現の中でしか行われないことに寂しさを感じる。特に行事や自身の体験を「感想文」と言った形で「書くこと」でまとめるとき等に、「～が楽しかった 。」「～が難しかった 。」といった表現のみで終わってしまうことも多い。また、言語表現を得意とする生徒の書いた文章を読み、理解・鑑賞すること、いわゆる「読むこと」も苦手としている。

既出の中学校学習指導要領には、「言語に対する知的な認識を深めるだけでなく、言語感覚を豊かにすることは、一人一人の生徒の言語活動を充実させ、自分なりのものの見方や考え方を形成することに役立つ。こうした言語感覚の育成には、多様な場面や状況における学習の積み重ねや、継続的な読書などが必要であり、そのためには、国語科の学習を他教科等の学習や学校の教育活動全体と関連させていくカリキュラム・マネジメント上の工夫も大切である。さらに、生徒を取り巻く言語環境を整備することも、言語感覚の育成に極めて重要である。我が国の言語文化に関わるとは、我が国の歴史の中で創造され、継承されてきた文化的に高い価値をもつ言語そのもの、つまり、文化としての言語、また、それらを実際の生活で使用することによって形成されてきた文化的な言語生活、さらには、古代から現代までの各時代にわたって、表現し、受容されてきた多様な言語芸術や芸能などに関わることである 。」とある。本校では、

[2] 文部科学省　中学校学習指導要領（平成２９年告示）解説　国語編　平成２９年７月 p13～ https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387018_002.pdf

読書活動の継続的な積み重ねや、授業内でも取り組んできた「川柳」、「短歌」、「俳句」といった日本の伝統的な言語芸術を生かし、生徒たちの言葉を育み、表現する力を伸ばすことに力を入れていく必要性を感じている。

4　研究の全体構想

本校の教育目標

自立貢献「自ら学び、豊かな心を持ち、たくましく生きる生徒の育成」
（１）よく学び、よく働く生徒　（２）元気よく挨拶する生徒
（３）仲間を大切にする生徒　（４）親孝行のできる生徒

本校の研究主題

深い学びを意識した学習活動の実践
～自ら学びを深めることができる生徒の育成を目指して～

本校国語科の研究主題

自ら学び考え表現する生徒の育成

めざす生徒像

・「答えのない問い」に向き合い、思考し、判断し、表現する生徒
・語彙力を向上し、表現力の幅を増やせる生徒
・自身の表現を推敲し、表現力を深めていく生徒
・問題の解決、さらなる能力向上のためにコミュニケーションをとれる生徒

研究主題

自ら学び考え表現する生徒の育成　―自身の感動を伝える短歌の創作を通して―

研究仮説

日常の出来事を「短歌」にして表現する活動で、自身の体験や感動を書こうとすることで、語句の推敲や生徒同士での話し合いが行われ、「表現力」や「コミュニケーション能力」の向上につながるであろう。

研究内容

（1）学習時間の確保と定着	（2）自身と生徒同士による推敲
・季節ごと、月ごと、行事ごと、単元ごとなど定期的に作品作りをする。 ・作成した作品を教室や廊下に掲示する。 ・掲示した作品を鑑賞する時間をとる。	・ひざしの作品作りの機会を利用して、作品を推敲する。 ・ICT機器、プリント、掲示物を用いて、作品を共有する。

授業実践、実践を終えた後の生徒へのアンケート（感想）で検証

５　授業実践による検証

４の全体構想をもとに、以下の２つの実践を行った。【単元１】は中学１年生と【単元２】は２年生を対象にした「短歌の創作」の単元である。２年生は「短歌の味わい」という単元のまとめとして行った。

【 単 元 １ 】

①単元名：短歌を創作する　～ひざし出品に向けて～

（教材名　みなさんから寄せられた短歌を紹介　俵万智さんが選んだのは…？ＮＨＫ番組「あさイチ」より）

②目標：

・心情を表す語句の量を増やし、短歌の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。【知識及び技能】（１）ウ

・学習したことや読み手からの助言などを踏まえ、自分の短歌のよい点や改善点を見いだすことができる。【思考力、判断力、表現力等】Ｂ（１）エ

・言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。【学びに向かう力、人間性等】

③指導と評価の計画：全４時間

次	時	学習内容と学習活動	評価規準（観点）【方法】
第一次	1	・単元のめあてを確認する。 意見の交流をもとに、効果的な表現について考えて、短歌を推敲できるようになろう。 ・動画（５分）を視聴し、俵万智さんに選出された作品のよさについて学習する。 ・「めざす短歌作品」を確認する。	・よい短歌作品について関心をもち、意欲的に解説を聞こうとしているか、確認する。 （主体的に学習に取り組む態度） 【観察・学習プリント】
第二次	2	・短歌を作る。	・よい作品例（先輩の作品）を参考にして、進んで表現を工夫しようとしているか、創作の姿を確認する。 （主体的に学習に取り組む態度） 【観察・学習プリント】 ・短歌に描かれている情景や心情を想像し、読み取っているか、内容を確認する。 （思考・判断・表現） 【ロイロノート】

	3	・友達の短歌に描かれている情景や心情を読み取る。 ・友達の短歌のよい点、改善点を書く。	・学習したことを踏まえ、友達の短歌のよい点や改善点を見いだしているか、内容を確認する。 （思考・判断・表現） 【ロイロノート】
第三次	4	・少人数グループで意見を交流する。 ・交流した意見をもとに自分の短歌を練り直して完成させる。 ・完成した作品を見る。 ・学習のまとめを書く。	・意欲的に友達の意見を聞こうとしているか、姿を確認する。 （主体的に学習に取り組む態度） 【観察】 ・読み手からの助言などを踏まえ、自分の短歌のよい点や改善点を見いだし、効果的な表現について考えたり、言葉を吟味したりして短歌を作っているか、姿と内容を確認する。 （思考・判断・表現） 【ロイロノート】

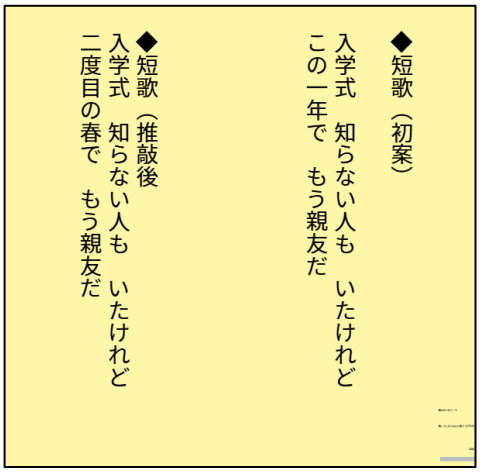
④授業の実際と研究内容との関連

☆第三次：作成した短歌を少人数グループで意見交流し、自身の短歌を練り直して完成させる。
関連する研究内容＝（２）自身と生徒同士による推敲
・ICT機器、プリント、掲示物を用いて、作品を共有する。

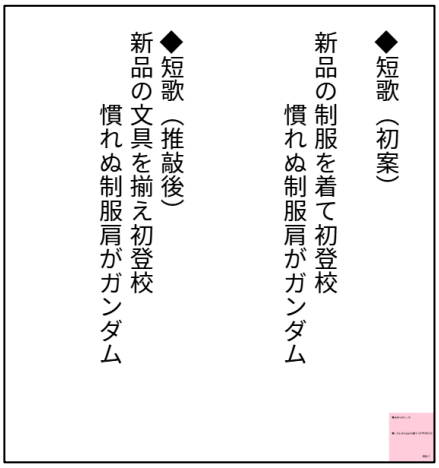
この授業を行うにあたって、４月から１月までクラスによって差異はあるが、「季節の短歌」と称して、４～５首の短歌を作成している。最初は、５・７・５・７・７の３１音に当てはめることが精一杯だった生徒たちも少しずつ、自分の感じた情景に近いイメージを言葉で表現できないか、という意欲が高まっているように思われる。

「ロイロノート」の中から抜粋したものが以下のものになる。

生徒Ａ



生徒Ｂ

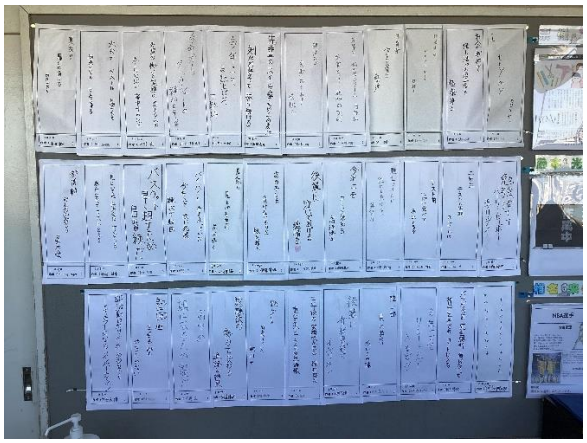


生徒Ａの短歌「入学式知らない人もいたけれどこの一年でもう親友だ」は（推敲後）に「この一年で」から「二度目の春で」に変更されている。Ａさんの中で「また春が来た。」「入学してから一年がたった。」という心情を強調したいがための変更なのだろう。

生徒Ｂの短歌「新品の制服を着て初登校慣れぬ制服肩がガンダム」は、大きなおろしたての制服がピシっとしている感じがロボットのような角張りに感じ、「ガンダム」という単語で表現している。上の句の変更は、制服についての内容が被っているためであろう。「新品の文具を揃え」は、新入生の初々しさを表しつつも、下の句を読むと、学校へ進学するための武器を揃えてきたようにも感じる。クラスメイトとの対話に

よって、より表現が洗練されているように思う。

また、表現のアドバイスをもらったとしても、検討の末、変更をしない生徒もいる。短歌の表現は、時に他者にとっては「この方がよいだろう」と思っても、作者自身が「それでも自分とって、この表現が表したい情景としてふさわしい」ということもある。授業では、「読み手にとってわかりやすい表現」を作成時の目標の一つに掲げていたが、生徒自身が表現したいことを優先し、最終的には選択させる形をとった。



作成した短歌は廊下掲示にして、他クラスも観賞できるようにしている。廊下掲示物は通年で行われた。廊下掲示をしたあとの授業では、生徒を引率して、観賞し、お気に入りの短歌を決め、感想を述べたり、投票したりした。鑑賞中に生徒たちからは「この言い回しが上手 。」「この発想は思いつかなかった 。」 等といった感想も聞かれた。生徒たちにとって、多くの短歌作品を目にすることが、新たな表現方法の獲得につながっているのではないかと考える。

【 単 元 2 】

①単元名：短歌の味わい　～ひざし出品に向けての短歌創作～

②目標：

・抽象的な概念を表す語句の量を増やすとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、五感を磨き語彙を豊かにすることができる。【知識及び技能】（１）エ

・根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。

【思考力、判断力、表現力等】Ｂ（１）ウ

・読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えることができる。

【思考力、判断力、表現力等】Ｂ（１）エ

・読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見出すことができる。

【思考力、判断力、表現力等】Ｂ（１）オ

・すすんで内容を味わい、今までの学習を生かして短歌を創作することができる。

【学びに向かう力、人間性等】

③指導と評価の計画（全４時間）

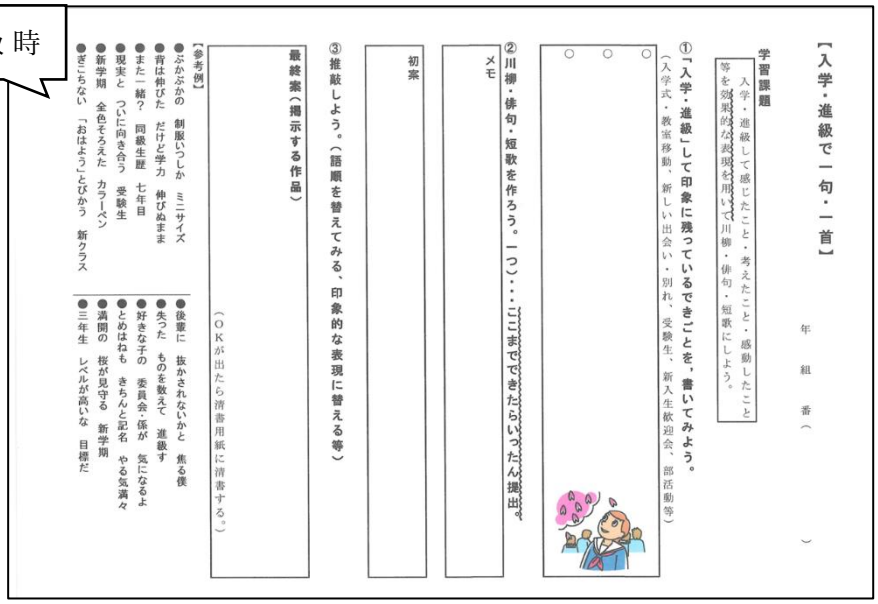
次	時	学習内容と学習活動	評価規準（観点）【方法】
第一次	1	・単元のめあてを確認する。 「短歌の味わい」を読み、「短歌十首」の中から印象に残った短歌を選び、意見を交流しよう。 ・「短歌の味わい」を読んだ後に「短歌十首」の中から印象に残った短歌を一つ選び、印象や感想についてノートにまとめる。 ・意見を班で発表する。	・短歌の内容を理解し、自身が興味を持った理由を書こうとしている。 ・よい短歌作品について関心をもち、意欲的に選者の解説を聞こうとしている。（主体的に取り組む態度） 【国語ノート】
第二次	2	・単元のめあてを確認する。 「少しだけ変えてみる」を読み、短歌の一部分を自分で考えアレンジしてみよう。 ・練習課題をテーマに沿って、上の句や下の句を考える。 ・班員に書いたものを紹介する。 ・動画（５分）を視聴し、俵万智さんの解説を通して学習する。	・テーマに沿った短歌の一部を書くことができる。（思考・判断・表現） 【国語ノート】 ・短歌作品について関心をもち、意欲的に作者の解説を聞こうとしている。 （主体的に取り組む態度） 【国語ノート】
第三次	3	・単元のめあてを確認する。 短歌を創作し、クラスメイトと意見交流をしよう。 ・「めざす短歌作品」を確認する。 ・短歌を創作する。 ・友達の短歌に描かれている情景や心情を読み取る。 ・友達の短歌を推敲する。	・短歌に描かれている情景や心情を想像し、読み取ることができる。 （思考・判断・表現） 【国語ノート】 ・短歌の中での表現技法や語句の意味を理解することができる。 （思考・判断・表現） 【国語ノート】 ・短歌のリズムや表現方法などの特徴を理解して、作品の内容を捉えることができる。（思考・判断・表現） 【国語ノート】 ・情景や心情を表す語句に注意して、短歌を読み味わうことができる。 （思考・判断・表現） 【国語ノート】

第四次	4本時	・単元のめあてを確認する。 交流した意見をもとに、効果的な表現を考え、自分の短歌を練り直そう。 ・交流した意見をもとに自分の短歌を練り直す。	・意欲的に友達の意見を聞こうとしている。（主体的に取り組む態度） 【観察】 ・交流した意見をもとに効果的な表現について考えたり、言葉を吟味したりして短歌を作ることができる。 （思考・判断・表現） 【国語ノート】

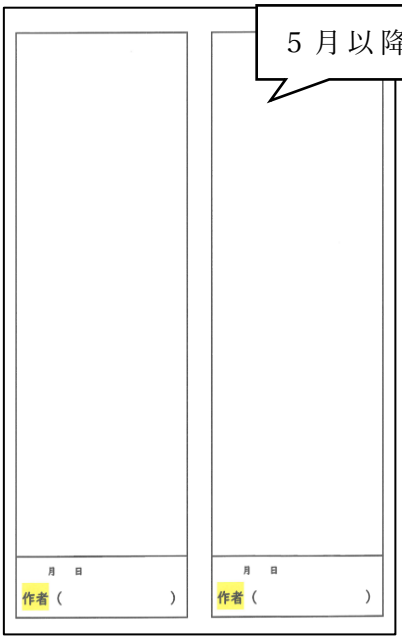
本単元を迎えるまでに、年間を通しての活動として、「進級時（４月）」、「５～６月」、「令和六年度のひざしの作品作り（７月）」、「８～９月」、「１０～１１月」の５回の作品作りを行った。年度当初に、あらかじめ「年間を通して、身近な出来事を短歌にしていくこと」、「ひざしの作品作りの時間以外は、授業の最初に作品を書く時間をとり、提出してもらうこと」を予告した。実施時間は、授業の初めに５分～１０程度の時間をとって、以下の用紙に記入させた。

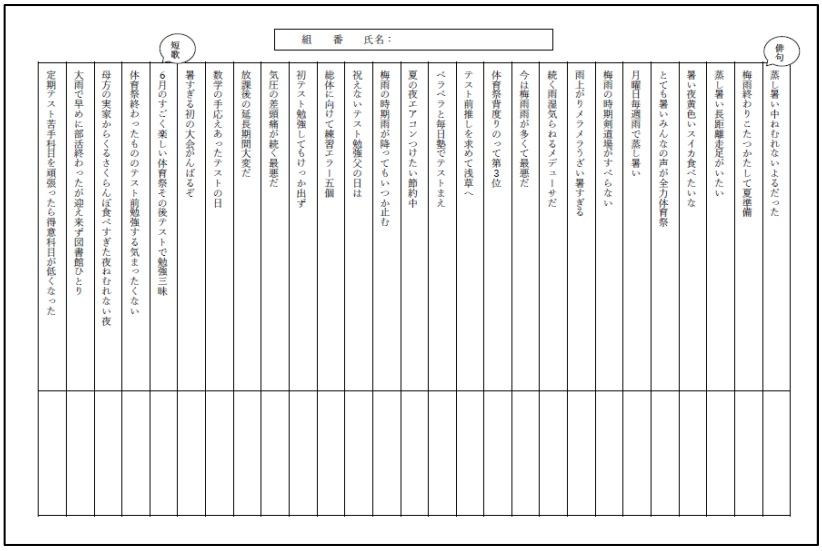
当初は短歌の３１音を書くことが難しく、「俳句」も可として、自由に書かせた。

進級時



５月以降





書いた作品は、次の授業で振り返りとして「ミニ鑑賞会」を行った。

この用紙は各クラスの作品をまとめたものである。「自分が気に入った、面白いと思った作品・表現」に１つ○をつけ、簡単に理由を述べてもらった。また、集計して最も票の集まった

作品を「○組○月の短歌大賞（俳句大賞）」として取り上げ、作成時の感想を述べてもらった。

また、同時に学級担任にも「担任賞」として、作品を取り上げてもらった。担任からは、「担任賞」を選定する中で、「生徒たちが日常のどんなところに注目や感動をしているかを知ることができて面白かった。」という感想が出た。生徒作品については、資料編を参照していただきたい。

④授業の実際と研究内容との関連

☆第四次：作成した短歌を少人数グループで意見交流し、自身の短歌を練り直して完成させる。

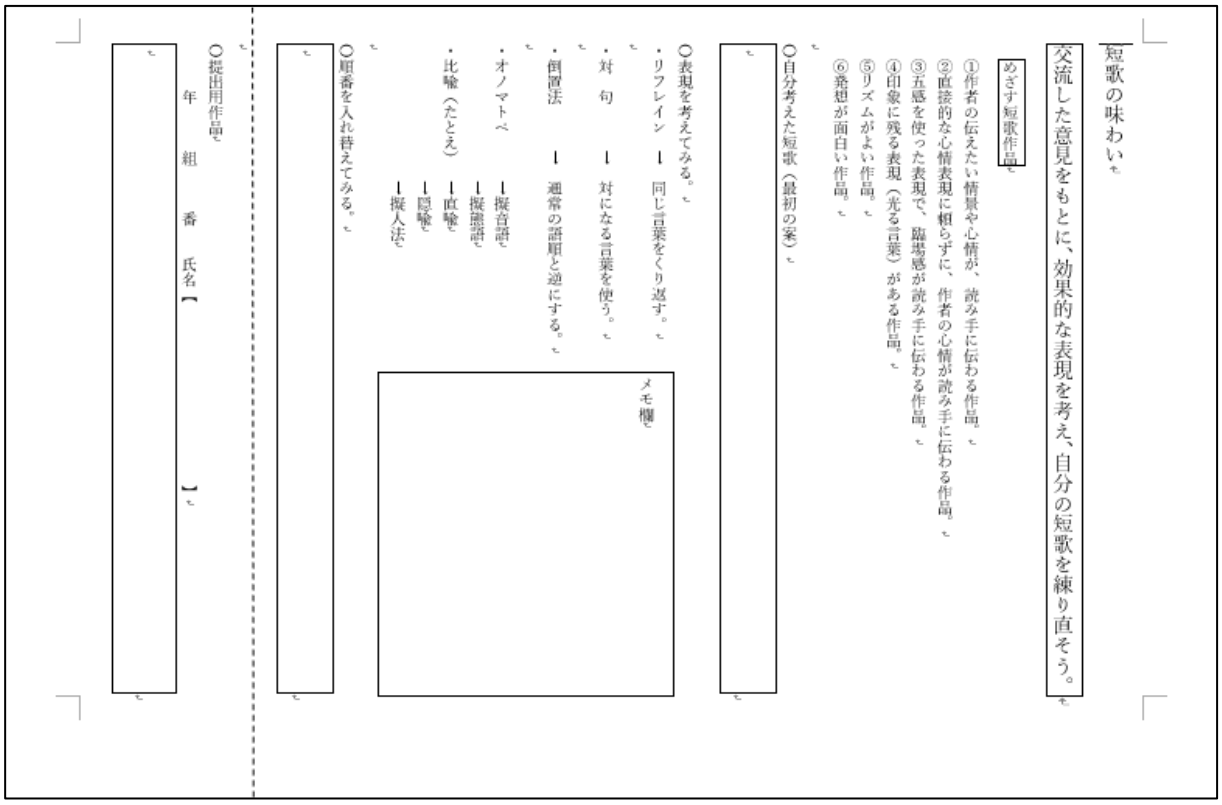
（２）自身と生徒同士による推敲

関連する研究内容＝（２）自身と生徒同士による推敲

・ひざしの作品作りの機会を利用して、作品を推敲する。

・ICT機器、プリント、掲示物を用いて、作品を共有する。

本授業は、【単元１】とは異なり、ＩＣＴ機器を用いず、プリントを用いての学習とした。



創作する上で、「めざす短歌作品」を提示した。以下の６項目である。

①作者の伝えたい情景や心情が、読み手に伝わる作品。

②直接的な心情表現に頼らずに、作者の心情が読み手に伝わる作品。

③五感を使った表現で、臨場感が読み手に伝わる作品。

④印象に残る表現（光る言葉）がある作品。

⑤リズムがよい作品。

⑥発想が面白い作品。

これらは、次年度の「印旛の文集ひざし」の短歌に出品することを意識したものである。

推敲の際には、２年生までに学習した表現技法を取り入れてみる等の工夫も促した。

以下の２枚も参考資料として、配付した。改めて提示しているが、通年で生徒に伝えてきたことを整理し、例をつけたものである。これらの条件をすべて満たすことが厳しい生徒には、基本の⓪や③の五感を何か一つ入れて、創作してみることを勧めた。

短歌【　意見交換のポイント　】

ここをチェックしよう！

⓪定型（五・七・五・七・七）になっているか。

❶作者の「伝えたいこと（情景や心情等）」が読み手に伝わっているか。

❷直接的な心情表現に頼らずに、作者の心情が読み手に伝わっているか。

（例　肩を落とす↓がっかりした　目を見開く↓驚く
唇をかむ↓悔しい）

❸五感を使った表現で、臨場感があるか。

（例　陽射しが肌に突き刺さる↓非常に暑い
試験会場　口の水分全部とぶ↓強い緊張）

❹印象に残る表現（光る言葉）があるか。

（例「ゴートに決める高速弾丸」「なってみせよう鬼のドリブラー」
「体育祭ゴリラ化やばい綱引きよ」）

❺リズムがよいか。

（例　卓球部　大会大会また大会）

❻発想が面白いか。

（例　「頑張れよ」明日の自分に言って寝る
「わかっているよ」起きて答える）

楽しい

◆街へ行こ　ボーダーシャツにぴかぴかの私の音符弾ませながら

◆帰省せし我と夕餉の麦酒（ビール）のむ　今宵の父は饒舌（じょうぜつ）なりき

寂しい

◆「元気でね」とひまわり色の声を出す　涙の淵に落ちそうな夏

◆ジーンズに沢山の窓を開けながら心を閉ざす二十歳の息子

◆大阪にとどまる理由がなくなって勤務地自由の私は一人

怒り

◆諫早（いさはや）に干潟（ひがた）が昔あったって言うなよおとぎ話みたいに

◆マニュアルに〈主婦にもできる〉といたわられ　〈にも〉の淵より主婦蹶起（けっき）せよ

孤独

◆空白の手帳に記す明日はなくガトーショコラの苦さ楽しむ

旅情

◆一人乗りバイク走らせ向いおり　美瑛（びえい）の大地富良野（ふらの）の大地

恋

◆伝えたい思いは形にならなくて空を見てよとメールを送る

◆金曜の朝一番に思うのは明日は会えぬあなたの背中

◆ここにいる僕より君はケータイの話し相手に笑顔を見せる

実際に創作した作品を３名抜粋してとり上げる。

生徒Ａ
（初　案）ツーアウト最終回のグラウンドフルスイングで外野に飛ばせ
（推敲後）ツーアウト最終回のグラウンド外野に飛ばせフルスイングで

○推敲後の変更は、語順を入れ替えることで「フルスイング」を強調できないだろうか、という試みである。倒置法を用いることで生徒が部活動の試合の際に「自分が打ち取られたら負けの大ピンチの場面でも、怖がらずに思い切りスイングした 。」 という思いを表現したい意図が感じられる。

生徒Ｂ
（初　案）暑い日に友達といく自転車で海の匂いが近づいてきた
（推敲後）暑い日に友達いっしょにペダル踏み潮の匂いが近づいてきた

○こちらは、友人たちと海に遊びに行った時のことを書いたものだ。作者の生徒は、班員との意見交流ののち、「自転車で行ったこと」と「海に行ったこと」をより具体的に表現できないかという意図で書いたものである。海までの長い距離、友人たちとペダルを懸命にこいだこと、潮の匂いで海がもうすぐだと感じたことなどの感動を表現したいと述べていた。

生徒Ｃ
（初　案）大会で寒さと視線で動けない震える体心臓の音
（推敲後）大会で寒さと視線で動けない震える体とびでる心臓

○冬の大会を終え、寒さと大会の緊張感をどのように表現するかで話し合っていた作品である。話し合いの中で、大会の時の緊張感は「心臓がとびだすほど」だったのだという。そこの表現について「どのように表現したら、面白いか、より伝わるか」という観点で推敲を重ねていた。

授業を行い、短歌に対しての簡易的なアンケート（感想）では、次のようなものがあがった。

【調査人数３０人】

・ほかの人の作品を見て「良い」と感じたことはありますか。
（ある　２９人、ない　１人）

・短歌を作るときに、面白いと感じることはありますか。
「自分の価値観をもとに身近なことや季節のことを表現できること」
「思い出を振り返られること」「作り手の性格や考えが見えること」
「別の表現に言い換えて伝えられるところ」

・短歌を作るときに、難しいと感じることはありますか。
「作るときの言葉選びや語句の知識の不足」「五・七・五・七・七に当てはめること」
「たくさんのテーマの中から決めること」

・人が短歌を作るのは、どうしてだと思いますか。
「自分の気持ちを伝える手段」「自分の気持ちを芸術的に残しておきたいから」
「楽しい・面白い気持ちを残すため」「自分の良さを形に残すため」

このアンケートをみても短歌の活動を通して、他者の「良い」と感じるものを知ることができること、また、自分の「良い」と感じることを自分自身で工夫して伝えるところに面白みを感じていることがわかる。このことから、当初の「日常の出来事を『短歌』にして表現する活動で、自身の体験や感動を書こうとすることで、語句の推敲や生徒同士での話し合いが行われ、「表現力」や「コミュニケーション能力」の向上につながるであろう。」という研究仮説にあるように、生徒たちはクラスメイトと短歌の表現をより良くするための「推敲」を通して、お互いをよりよく知り、コミュニケーションを深めることにも繋げることができたのではないかと考える。

また、課題として「言葉選びをするための語彙が不足していること」等は、支援をしていても実感するところなので、今後の授業でも継続的に向上させていきたい。

６、本研究の成果と課題

（１）成果

昨年度の４月に短歌作りを始めたときは、「短歌」「俳句」「川柳」の形式の違いがわかる生徒が１３％のところからスタートしたが、現在では、授業中に９２％の生徒が形式を理解し、提出をすることができるようになった。日常的に「短歌」や「俳句」を書くことも身近なものになったと感じる。また、本年度の７月に「印旛の文集ひざし」に向けて作品作りをしたときに、作品制作後の感想では以下のようなものが出た。

・今の自分の気持ちを表す言葉が、自身の語彙力で表現できないときクラスメイトに聞いたり類語辞典、タブレットＰＣ等を使って検索したりするようになった。
・短歌の５音、７音の場所を入れ替えて、より印象づけられないか、と考えた。
・順番を入れ替えたり、ひらがなや漢字を変えたりした短歌を４種類くらい作ってみて、どれが一番私のイメージに近いのか、クラスメイトに相談してみた。

これらの感想をみると、当初の研究仮説「日常の出来事を『短歌』にして表現する活動で、自身の体験や感動を書こうとすることで、語句の推敲や生徒同士での話し合いが行われ、『表現力』や『コミュニケーション能力』の向上につながるであろう。」については十分に達成できたのではないかと考える。本研究で大切にしたいと考えていたことは、「考えを共有して、推敲して、自分でまた考える」という過程である。その過程は、２年間の日常の中で向上が感じられた。

また、作品を掲示することで、学年生徒全員の作品を日常的に見ることができた。「学級の短歌大賞」であったり、「担任の選ぶ短歌」であったり、「工夫や表現の良さ」を感じる短歌を見て、学ぶことも意義があると感じた。また、「ロイロノート」を活用しての「ゆるく他者とつながり、他者の作品が見られる」というのは、ＳＮＳを日常的に用いている生徒にとって、

閲覧しやすいものになったと思う。

（２）課題

・生徒に配付されているタブレットパソコンを活用して、語彙プリントを配付したり、パソコンで検索させたりすることで、新たな語彙を習得させようとしたが、チャットＧＰＴを用いたり、表彰されているような短歌作品を利用したりするなど、授業を始めたころは、使い方を誤っていることも多かった。
・検索した言葉を使用してみたものの、短歌全体とのバランスが悪かったり、意味が分かりづらかったりするものもあり、語句の使用法も指導していく必要性を感じた。
・「わかりやすい表現」を意識しすぎてしまい、生徒自身が表現したい感覚とずれてしまうことがあった。あくまでも生徒が表現したい形に添うようなアドバイスが必要である。
・【単元２】では、パソコン等の電子機器を使用しなかったが、【単元１】の授業展開を見ても、モニターに作品を拡大して紹介できるのは、視覚的にも大いに効果を感じた。使用のルールなどを工夫して、導入していきたいと思う。

○参考文献

・文部科学省「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現～（答申）（中教審第 228 号）
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/079/sonota/1412985_00002.htm
・高田ほのか（監）『基礎からわかる　はじめての短歌　上達のポイント』三松堂　２０２１年5月２５日
・俵万智・一青窈『短歌の作り方、教えてください』角川学芸出版　２０１０年5月２０日
・坂井修一『ここからはじめる短歌入門』角川学芸出版　２０１０年9月２５日
・俵万智『考える短歌　作る手ほどき、読む技術』新潮社　２００４年9月２０日
・俵万智『短歌のレシピ』新潮社　２０１３年3月２０日
・三田村信行『どれだけ知ってる？対義語類義語』童心社　２０２２年3月１６日
・矢澤真人（監）『グループで覚える言葉の使い分け辞典』 Gakken ２０２４年7月１１日
・齋藤孝『１２歳までに知っておきたい語彙力図鑑』日本能率協会マネジメントセンター　２０２２年3月３０日
・山口謡司『なんでもない一日の辞典』WAVE出版　２０２２年9月２０日
・森山卓郎（監）『写真で読み解く類義語大辞典』あかね書房　２０１３年１２月１５日
・学研辞典編集部（編）『感情をピッタリ表す言葉が見つかる！ことば選び図鑑』 Gakken　２０２５年4月２８日
・弥延浩史（監）『語彙力が身につく図鑑３６５』高橋書店　２０２４年6月２７日
・深谷圭助（監）『例解学習類語辞典』小学館　２００９年1月２１日
・矢野耕平『１３歳からの「気持ちを伝える言葉」事典』メイツ出版　２０１９年3月5日
・中村明（編）『新明解類語辞典』三省堂　２０１５年8月1日